

地域協働学部 カリキュラム・ポリシー

【教育内容】

地域協働学部の学士像（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、教室における知識の修得と地域の現場における実践の往還の中で「地域協働マネジメント力」を身につけることをめざし、本学部教育課程を編成しています。

1. 共通教育科目

大学生に必要とされる幅広い教養や基礎的スキルを身につけるために、共通教育科目を配置しています。

2. 講義科目、演習科目

専門分野の知識・技法を修得するために、「総合科目」及び「地域協働マネジメント分野」、「地域産業分野」、「地域生活分野」の科目を配置しています。「総合科目」は、基礎的専門知識・技法を学ぶ科目と位置づけ、主に、必修又は選択必修として1年次を中心に配置しています。また、3つの分野においては、2年次以降に学生自らがめざす人材像を念頭に置きながら、各分野から1科目2単位以上を選択して専門分野の知識・技法を幅広く修得するよう科目を配置しています。

3. 実習研究科目

地域の人々と協働しながら、地域の特性を理解し、地域課題解決のための事業企画を立案・実施する実践的取り組みを行う科目として、またその実践の中で地域課題に関する理論的考察を行う科目として「地域協働総合実習科目」を1年次から3年次まで必修科目として配置しています。この科目は、地域における実践とそれを通しての考察の中で、学生各人が講義や演習で修得した知識や技能を統合して発揮する、各学年の総括的科目として位置付けられています。

4. 地域協働実践・卒業研究

本学部における学修の集大成のために、「地域協働総合実習・卒業研究」を4年間の学びの成果を総括する科目と位置づけ4年次の必修科目として配置しています。

【教育方法】

1. アクティブ・ラーニング

学生の主体的な学びを促進させるために、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施します。

2. ルーブリック

学生の学修の到達度を明確にすることで、学生自身が自己の学修到達度を確認できそのことにより学修意欲が向上することをめざし、「地域協働総合実習科目」において、本学部が養成をめざす人材が身につけるべき「地域協働マネジメント力」を構成する3つの能力である「地域理解力」「企画立案力」「協働実践力」に関するルーブリックを用いて、学修指導を実施します。

3. フィードバック

学生の学修をより深めるため、「地域協働総合実習科目」における「振り返りシート」をはじめ、各種授業科目で学生に対するフィードバックを用いた学修指導を実施します。

4. 面談

学生の学修状況を把握し適切な指導を行うため、「地域協働総合実習科目」において、年間4回の面談により学修指導を実施します。

5. 教育情報の蓄積・共有化・交流の促進

授業の内容・成果などに関する各種情報を学部内で蓄積・共有し、有効活用して各教員の授業を充実させていきます。また授業内容・教育方法をより高めるため、授業内容の交流や改善に関するFDを行います。

【教育評価】

1. 学生の学修成果に関する評価

各授業科目の学期末成績評価はシラバスに記されている評価方法によって行います。4年次の「地域協働総合実習・卒業研究」における卒業研究については複数教員による指導と審査を行います。

2. 各教員の教育内容・教育方法の改善

各教員は、授業改善アンケートによる意見聴取や、学生面談による学修到達度の把握等に基づき、教育内容・教育方法の改善を行います。

3. カリキュラムの改善

学部は、「ディプロマ・ポリシーの到達度」「学修成果の到達度」等の指標に基づいて、カリキュラムを評価し、その結果を基にカリキュラムの改善を行います。